

# 会員募集！

紫波みらい研究所では随時会員を募集しています。環境を守りたい、再生したい、子どもたちに自然を体験させたい、お年寄りの活躍の場を作りたい…。

そんなみなさんの思いをひとつずつカタチにしていける場です。すでに活動している人、何かしたいと考えている人、何から始めてよいかわからない人…いろいろな人が手を結び、ともに生きる楽しさや豊かさを実感できるような紫波のみらいをつくっていきませんか！



## 今年度分 会費の納入をお願いいたします

会員のみなさまから会費を納入いただいておりますが、まだ何人かの方が未納になっております。

また、みらい研究所の活動を維持し、発展させていくためにも、資金面でご助力いただける賛助会員も募集しています。

年会費	個人会員： 2,000円
	団体会員： 3,000円
	賛助会員： 10,000円

会費の納入は、事務局に持参していただくか、振込をお願いいたします。

振込みは以下のどちらかに。

岩手中央農業協同組合 紫波町役場出張所
普通口座 4217490
口座名義：紫波みらい研究所 理事長 高橋米勝
郵便貯金総合通帳 記号18390 番号12505671
口座名義：NPO法人紫波みらい研究所

## 編集後記

最近、日に日に寒くなってきましたが、いかがお過ごしですか。

9月にはとても残念なことがありました。いつも視察の時に世話になっている「虹の保育園」が半焼しました。9月19日に、国学院大学の学生と視察に訪れ大梁の下で理事長の話を聞いたばかりでした。心よりお見舞いを申し上げます。来年早々の再建を目指し、紫波みらい研究所でも何かお手伝いできることから始めようと思います。(虹の保育園復興支援「にじいろチャリティーコンサート」の後援をしています。詳細は別紙パンフレットを参照してください。)

さて、産業まつりも終わり、会報編集に取り掛かりましたが、会報の体裁を少しずつ変えていっています。会員の皆さんからこんな風にしたらというアドバイスを募集します。また、会員の地域における活動の声を掲載したいと思います。事務局まで連絡をお願いします。

# みらい通信

◎  
H16年  
11月号

発行 NPO法人紫波みらい研究所  
連絡先 〒028-3305  
岩手県紫波郡紫波町日詰字郡山駅57-3  
電話・FAX 019-676-6103  
E-Mail miraiken@shiwa-mirai.com  
ホームページhttp://www.shiwa-mirai.com

## 目次

参加しました！	1P
各部会活動報告	
地産地消推進部会	
第4弾 ワン・コイン・セミナー	2P
森と家づくりの会	
私たちの町に受け継がれる「匠の技」と「森の活用」見学ツアー	3P
国学院大学間伐体験	4-5P
地元学部会	
デジタルカメラ環境探検隊写真展	6P
第9回環境探検隊 ふれてみよう 入ってみよう 北上川！	7P
第10回環境探検隊(中止)	8P
各部会案内	8P
産業まつり報告	9P
地域における伝承等聞き取り保存事業	10P
今後の予定	11P



## 参加しました！(50音順)

### 7/31 私たちの町に受け継がれる「匠の技」と「森の活用」見学ツアー

伊藤地歩、川村浩亮、菅原和博、高橋米勝、八重畑忠、

### 8/7~8/31 写真展/JR紫波中央駅・JR盛岡駅(準備、オープニングセレモニー)

阿部昌利、阿部礼子、小野紀之、籠澤早織、門脇耕一、佐藤勇悦、佐藤由美子、高橋米勝、中田久敏、根本淑子、藤滝学、藤田覚、細川栄子、村井左保、八重畑祐見子、吉田修、ボランティア3人

### 8/21 第9回環境探検隊 ふれてみよう 入ってみよう 北上川！

阿部昌利、籠澤早織、佐藤由美子、多田祥一、藤滝学、細川栄子、村井左保、森川一成、八重畑祐見子、吉田修、ボランティア3人

### 9/18~9/20 国学院大学間伐体験(間伐、交流会)

阿部礼子、籠澤早織、作山孝光、笹井由香、佐藤由美子、菅原和博、杉浦正治、高橋米勝、多田祥一、中田久敏、細川一三、八重畑忠

### 10/1 第4弾「ワン・コイン・セミナー 食は地元にあります！」

阿部昌利、阿部礼子、江崎澄雄、菊池みどり、熊谷勝子、佐藤由美子、高橋米勝、鳥畑千佳子、足澤澄、中田久敏、根本淑子、細川栄子、八重畑祐見子、山上里香、吉田修

### 10/22~10/24 紫波町産業まつり

阿部礼子、小野紀之、籠澤早織、鎌田一元、熊谷勝子、笹井由香、佐藤勇悦、佐藤由美子、高橋米勝、高橋米勝、多田祥一、足澤澄、鳥畑千佳子、中田久敏、根本淑子、藤滝学、森川一成、八重畑祐見子、吉田修

### 11/6 紫波町環境課主催植林体験(講師として)

高橋米勝、菅原和博

記入もれがあったらすみません！

# 地産地消推進部会報告

## 「ワン・コイン・セミナー 食は地元にある！」第4弾

平成16年10月1日(金)  
参加者 43人

平成16年10月1日(金)19:00~会場を日詰商店街のなんばザホールで、開催しました。今回の発表者は、安代町にある豆腐専門店「ふうせつ花」の石田秀悦さんです。石田さんが「ふうせつ花」をつくったきっかけは、取引先のホテルの料理人から「舌のこえた客をうならせる高級豆腐を作って欲しい。今まで脇役だと考えられがちな庶民的イメージの豆腐をホテルの看板メニューとして売り出せないか」と言われたことだそうです。そして石田さんは、「調味料や調理のいらぬ豆腐だ。納得させるのはこれしかない」と思い、豆と水にとことんこだわった豆腐作りを目指したのです。

「ふうせつ花」で販売しているざる豆腐(4種類)と木綿豆腐を持ってきていただき、試食を通して、石田さんから豆の選び方から煮方についてのお話を聞きました。豆腐としては今まで食べたことのない食感や豆本来の味がしっかりとついているこの強さ。こだわりの豆腐はあっというまに完売となりました。



### 会員の声 (鳥畑千佳子)

手づくりのお豆腐のおいしさにかける情熱に共感しました。



講師  
石田秀悦さん  
(ふうせつ花)



### アンケートより

- ・ 食材の人格を尊重した考え方の食生活は体に良いばかりでなく、高いということで、すっかり使い尽くすのでごみも減ると思いました。
- ・ 初めて聞く話で勉強になった
- ・ 考え方が近く共感できた
- ・ 聞いていて興味が湧いた

また、ワン・コイン・セミナーに対しては、今後も色々なこだわりを持った生産者、時には地元の方の話も聞きたいし、それを流通にのせる工夫も聞きたい等の意見がありました。

## 10月20日、紫波中央駅に「新世紀未来宣言」表示板設置

北日本銀行紫波経友会さまが30周年を迎えられ、その記念に町への寄付の申し入れがあり、町から当研究所に寄付にふさわしいものを検討するよう依頼がありました。

当研究所では平成12年の環境新世紀イベント時に発表した「新世紀未来宣言」をより広く町民の皆さまの目にふれていただくことを考え、未来宣言の表示板を提案しました。この結果、経友会さまは、紫波中央駅待合施設左側に町産材を使用した表示板を設置するとともに、10月20日町長臨席の上除幕式が行われました。



## 今後の予定

### 参加者募集!

## 地産地消 秋の恵み・食のハーモニー

地産地消推進部会では、「地元でとれた産物を地元で消費しよう」を合言葉にこれまで野崎洋光さんを招いて「紫波の旬を美味しくつくる」を4回開催し、広く町民の方々に地元の食材を利用した料理を堪能していただきました。

さらに、部会では地産地消運動を進めるためにラ・フランス温泉館のご協力をいただき「秋の恵み・食のハーモニー」を開催することといたしました。料理は温泉館の料理長奥谷力さんが紫波の食材を豊富に活用した懐石料理を用意いたします。

ぜひ皆さまに紫波の旬を味わっていただければ幸いです。

日時 平成16年11月17日(水)18:30~  
会場 ラ・フランス温泉館 湯楽々 交流プラザ  
料理人 ラ・フランス温泉館 奥谷力料理長  
募集人員 先着30名様  
会費 5,000円  
内容 懐石料理8品目(地元の食材、しわ牛) アルコールはセットになっておりませんので、別料金となります。  
交通 当日、午後6時に紫波町保健センター前からバスで送迎いたします。

お申込・お問合せ先  
事務局 佐藤・籠澤までご連絡ください。

### 参加者募集!

## 国際協力機構「市民社会活動の促進とコミュニティ開発」研修会

平成16年12月3日~5日に、独立行政法人・国際協力機構(JICA)主催の、世界約10カ国の地元NGOおよび地方行政関係者を対象とした「市民社会活動の促進とコミュニティ開発」の研修会が行われます。詳細はまだ未定ですが、最終日には交流会が予定されていますのでみなさまの参加をお待ちしています。

## 「国学院大学間伐体験ツアー」開催

平成 16 年 9 月 18 日(土)～20 日(月)

平成 16 年 9 月 18 日(土)～20 日(月)の日程で、東京の国学院大学の先生方と 12 人の学生、2 人の子どもたちが間伐体験のため、来町してくれました。

この企画は、国学院大学の楠原教授が、上平沢小学校の見学時に高橋理事長と知り合い、高橋理事長の呼びかけに応じて実現しました。

(理事長の言葉)

東京の国学院大学の学生は間伐体験初体験だったが、皆さんには楽しんでいただけたと思います。今回、私ども NPO と学生と一緒に間伐体験を行ったことにより、外から(風の人)の刺激を受けました。次回からは会員ばかりでなく紫波町民と町外の学生と一緒に里山の大切さを体験できるという企画も計画したいと思います。

(アンケートの言葉)

学生の一人は、山屋の山林を見て、「数世代前の木を切って、数世代後の木を育てる、林業とはみらいを見つめる産業であること。さらにそれは自分達(林業家)だけでなく、環境サイドから見ても未来を築くことができる産業であると感じた」と言っています。

また、今回の間伐ツアーに関して「100 年後、数百年後の未来で、町の人々一人ひとりが森や川や山が豊かに生きることを目指して、コツコツと色々な人に出会い、様々な思いや願いを伝え合っていくことが大切と思う。そのためにも間伐ツアーがいつまでも続きますように!!」と書いてくれました。

もうすぐ会員になりそうな作山孝光さんの報告

### 枝打ち・間伐体験の様子

はじめにサポーターとしておいでいただいた山仕事クラブの方から間伐の意義に関する講話をいただきました。

間伐を行う山屋の森は植えられてから数十年たっており、古いものでは明治期に植えられた部分もあるそうです。

今回、間伐を行う樹木は植えられてから 20～30 年ほどの樹齢ですが、それでも建築用材として用いるにはまだまだ歳月が必要です。その事実に学生たちは神妙な表情を浮かべていました。



## 第 21 回紫波町産業まつり報告

平成 16 年 10 月 22 日(金)～24 日(日)



平成 16 年 10 月 22 日(金)～24 日(日)まで、サンビレッジ紫波で開催されました。

みらい研は、屋内で地元学が「みらい研の活動紹介(第2回～第9回までの環境探検隊特集)」・「デジタルカメラ環境探検隊写真展(第8回環境探検隊)」・森と家づくりの会が「木の香り当てクイズ」、屋外においては、地産地消推進部会が紫波町のあざみ会のご協力を得て、「なつかしいおやついろいろ」と題して、きりせんしょうやかまやきの試食販売を行いました。また、NPO 法人地域パートナーシップ支援センターの小野さんと伊藤さんの企画で、やわらかいせっけんを手でコネコネして作る、せっけんづくりの体験コーナーも2日間行いました。

みらい研の活動についてアンケートも取りましたが、残念ながらみらい研のことを知っている町民の人は少なかったです。しかし、その中でも、みらい研の活動には興味があるとの意見が数多くあったので、今以上に知ってもらう活動が必要だと感じました。また、みらい研に今後期待することとして、「紫波町の豊かな自然に触れ合える体験を企画して欲しい」「子どもたちとのイベントを計画して」「町民との触れ合いをして」等の意見がありました。会場では、みらい研のことについてや環境探検隊に大人は参加できないのかといった質問も数多くありました。

### 参加した会員の声

(笹井由香)

わたしは2日目の午後に参加しました。「コネコネマイせっけん」は、勧誘する前に試しに作ってみたのですが、大人でもおもしろく作ることができました。

「木の香り当てクイズ」は、普段何気なく見えても、けっこう難しいものだと感じました。

来年はもっとたくさんの方が楽しんで参加することのできるものになればいいと思います。

(鳥畑千佳子)

直接お客様にお話しをしながら、昔ながらのおやつの安全性をアピールできてよかったです。

### あざみ会の声

朝早く集まって作ったので、大変だったが楽しかったし、やりがいがありました。

今まで自分たちの技術を発表する場がなかったので、産業まつりに出店する機会をもらい、みらい研に感謝しています。

# 地域における伝承等聞き取り保存事業

今年度の紫波町からの委託事業です。事業の内容は、日詰地区の老人クラブや地元の皆さんから、当研究所で雇用した聞き取り調査員が、昔の暮らし方や遊び方、行事等について聞き取りをして、情報をあつめていくというものです。

消えていく言い伝えや記憶を、今のうちに少しでも多くデータとして残すことができるようにと思っています。

3ヶ月にわたって聞き取り保存事業に関わった聞き取り調査員の方から、お話をお聞きしました。

はじめまして、私たち3人は未来の子どもたちに日詰商店街の昔の生活、遊び、町並みなどをお年上の方々に聞いて残していくという仕事をさせていただいております。

8月21日から仕事に入り来年の1月20日までの採用ですが、11月上旬までで30件以上、延べ人数にすると70人以上の方々とお会いし、いろんな話をしてもらってきました。とても重要な仕事ではありますが、たくさんのお友達(年上の方々ですよ)も出来、すごく楽しい仕事をさせていただいており、感謝しています。

ご期待にこたえる事ができるものに仕上げたいと、日々がんばってます。いろいろ情報提供をお願いしながら、あいさついたします。



山崎義高 小笠原悦子 菊地千鶴子

## 会員の皆さまにお知らせします。

事業の名前だけ聞いてもどんなことをしているか、どんな内容なのか聞きたいなあとおられた方も多いと思います。そこで、事業のことや聞き取り調査員の方々が調査した内容を、皆さんに聞いていただく機会を作りたいと思います。

残念ながら、今回のみらい通信には日程等掲載できませんが、近日中には計画をして、会員の皆さまにお知らせできると思いますので、その節はぜひお集まりください。



お話を聞いた長井さん



昔の電気パーマ器



ひばりの会

# 森と家づくりの会報告

私たちの町に受け継がれる「匠の技」と「森の活用」見学ツアー  
「森は身近に生きている！」報告

平成16年7月31日(土)

参加者 33人

## 見学ルート

紫波町立上平沢小学校見学  
南部アカマツ材の伐採地見学  
紫波町立虹の保育園見学  
水分・曲がり屋見学  
紫波町保健センター駐車場で交流会



町内の森林から伐りだされた木材を100%活用し、町内の森林組合・製材所・工務店が協同して建てられた「上平沢小学校」と「虹の保育園」。町産材を使うことは、町内の山を守ることもつながります。

地元の木材と匠の技術が融合してこのような公共施設が建てられ、県内外からの注目が集まり、施設を見学しようと視察者が絶えません。その一方で、地元で暮らしている町民の方々には、このような施設を見学していただく機会がなかったのも事実でした。

今回は、みらい研の会員を始め、地元住民から参加者を募り、施設の見学を通して木材のぬくもりやあたたかさを感じてもらおうと共に、森林資源循環の必要性を実感していただけたと考えております。

見学会終了後、第2部として、参加者との交流会(バーベキュー)を開催し、おおいに盛り上がりました。

会員：伊藤地歩

参加者アンケートより

## 1 今回のツアーの感想

- ・素晴らしい町民の財産をほこらしく、感動しました。
- ・木材の良さ、又どんな使い方をするのか知ることができてよかったと思います。
- ・地域の方々に地産地消を理解していただく良い企画だと思います。
- ・とても良い企画でした。今後もぜひ、このような普段見たくても一人では見られないようなところを見せて下さい。

## 2 紫波町のいいところはどんなところ？

- ・田園風景が残っている。
- ・森が多く残っていること。
- ・山・川・空気がきれい。
- ・真面目で真剣な町民生と豊かな自然。
- ・広く、暖かく、食材がおいしい所。交通のアクセス、買い物等の施設が良いこと。
- ・新しいものと、古いもの、どちらも上手に取り入れている点は良いと思う。

## 3 紫波町の嫌なところは？

- ・特に嫌なところはありません。
- ・紫波町はとてもよいところです。
- ・公共施設が少ない。
- ・何でもありすぎ、特徴のあるものがない。
- ・「よさそうだな」と思っても腰が重いところ。足を引っ張る(ヤッカミも含め)風潮が強いところ。

## 4 紫波町の未来のために、必要なものや残したいものは？

- ・町産材で図書館を作ってほしい。新住民として週5日制の教育では不安である。夏休み冬休み自宅だけの勉強では変化がなく、図書館をそういう場所として提供してほしい。
- ・紫波方言。又、いつでも手軽に入って休める自然林を残しておくことです。
- ・文化と自然と人材。
- ・未来のためにこのままの自然を残したい。
- ・美しい緑、きれいな町。

# 地元学部会報告

## デジタルカメラ環境探検隊写真展

JR紫波中央駅 平成16年8月7日(土)～8月16日(月)

JR盛岡駅 平成16年8月22日(日)～8月31日(火)

今年5月に行われた「デジタルカメラ環境探検隊」は、たくさん子どもたちが参加し、大盛況のうちに終わることができました。子どもたちが撮った写真をパネルにし、写真展を開催しました。

紫波中央駅で行ったオープニングセレモニーには、探検隊に参加した子どもたちもたくさん来てくれました。



紫波中央駅で写真を見た方の感想

- カタツムリが素晴らしかった。写真がとても綺麗でした。紫波にはたくさんの緑があふれているんだなーと思いました。
- デジタルカメラでもこんなに綺麗な写真がとれるとは思わなかったのでびっくりしました。自然を写真におさめて紫波の良いところが皆にわかってもらえるといいですね。
- 写真を通して子どもたちの感性のすばらしさを感じます。大人が忘れてしまっていることであり、私自身もこれから心の視点を大切にしたいと思います。
- きれいな写真ばかりで驚きました。町内の人たちばかりでなくほかの方々にも見てほしいと思います。こんなに紫波には宝物があるのですよと紹介するにはいい写真だと思いました。

盛岡駅で写真を見た方の感想

- 紫波町在住です。日詰ではこの写真展を見ることができませんでしたが、思いがけず今は8月28日、盛岡駅で見ました。色々な花々の写真、風景、思わず感動しました。
- とてもきれいにとれていてびっくりしました。子どもたちがうつしたとは思いませんでした。今度古里に帰ってくるのを楽しみにしています。
- 東京から来ました！！色鮮やかな花たち素敵です。東京にはない色です。では自然を満喫してきまーす！！
- 新幹線、出発までの待ち時間、たまたま見つけた写真展でした。子どもの感想や写真を見て、そこに子どもたちがいるかのような息吹を感じました。写真を通して子ども達も良いひと時を過ごし、そして大切な成長の一過程となったことでしょう。周囲の大人の人間たちにも感謝を忘れないで欲しいものです。素敵な写真展！どうも有難う。



## 第9回環境探検隊

- ふれてみよう 入ってみよう 北上川！

平成16年8月21日(土)

参加者 28人

参加者は28人。徳田橋上流から紫波橋下流まで、ゴムボートでの川下りを行いました。普段見ることがない川からの景色は新鮮でした。

途中で、川に流される？体験をしました。みんな喜んで川の中に入っては歓声を上げていましたが、ひざくらいの深さでも立っているのがやっという状態で、水の力の怖さも痛感したようです。

参加者は、より一層、川に親しむことができたのではないかと思います。今回の環境探検隊に参加したことがきっかけになり、環境を守ろうという意識が高まることを期待しています。

会員：吉田修



参加者アンケートより

- 川に入って泳いだり、流れたりするのは初めてなのでとても楽しかった。
- とても楽しかったです。普段体験できないことができて、良い体験でした。
- ゴムボートに乗ること、川に入ること、なかなかできない体験ができ、参加してよかったです。次回も参加したいです。
- ゴムボートに乗ってみてすごく楽しかった。友達も呼べばよかった。
- 本当に楽しかったけど、川がすごい怖いってことがわかりました。でも、それ以上に楽しい場所だと感じました。これからもがんばってください。

このほか、とても楽しかったという感想を多くの方からいただきました！

**第 10 回環境探検隊  
きのことり、栗ひろい、もみじがり！  
おいしい芋の子汁を食べよう！**

平成 16 年 10 月 9 日(土)

山屋・峠地区

残念ながら

中止...



記念すべき 10 回目の環境探検隊は、きのことりを通じ、山からの恵みを知ってもらおうイベントでした。準備万端で、みんなが楽しみにしていたこの日は、なんと台風で大当たりしてしまいました。雨天決行ではあったものの、さすがにこれほど勢いのある雨では山に入るのは危険だろうと判断し、残念ながら中止ということになりました。

しかし、これにめげず、みんなでより良い環境学習の場を作っていきます！

**各部会案内**

みらい研究所の 3 つの部会は、毎月(だいたいね)部会を開催しています。

イベントの反省会や、これからの活動の予定を話しています。たまに、果物や漬物・おもちなどの差し入れがあるんですよ！これで、ますます話がはずみます。

みなさんもちよこっと時間を見つけて寄ってみてください。待ってます！

それぞれの部会のことは、担当理事に電話してください。お願いしま〜す！！

- |             |                    |                    |
|-------------|--------------------|--------------------|
| 地産地消推進部会    | 阿部礼子 676-5389      | 細川栄子 673-6625      |
| 紫波・地元学部会    | 八重畑祐見子 676-3021    | 吉田貴浩 090-6220-5042 |
| 紫波・森と家づくりの会 | 高橋米勝 090-3645-4100 | 菅原和博 090-8929-2409 |



地産地消推進部会



森と家づくりの会



地元学部会



午前中は枝打ち体験です。

枝打ちとは枝の中下の部分に生えた、日が当たらずに茶色く枯れてしまった枝を落としていく作業ですが、これにより、余分な養分が不要な枝に回らないようにするのだそうです。枝打ちには長い柄にノコギリと爪がついた形状の高枝ノコギリを使用しましたが、切れ味は鋭く、力を入れずとも枝を落とすことができました。学生たちは、木の切り屑が目に入り難儀をしたようですが、どんどん枝を落とすことが愉しかったようで、他に落とす枝のある樹はないかと周囲を探していました。

午後からは間伐体験です。

木の幹 3 分の 2 までノコギリで横一文字に切れ目をいれ、鉋で斜めに切り口をつけます。その後、反対側から最初の切れ目のやや上部に切れ目を入れると樹木自体の重量で倒れていきました。

倒した幹を運びやすい 1 m ほどの大きさに切る玉切りまで予定していましたが、慣れない作業のため、18 日は幹を倒すところで終わりました。

思った以上に首と腕、腰が痛くなる作業でしたが、自分で木を倒したときの充足感は何にもものにも代えがたいものでした。



次の日は、紫波町の公共木造施設の見学と夜には町長・町民を交えての交流会を行いました。



19 日 町内公共木造施設見学(上平沢小学校)



20 日 交流会